



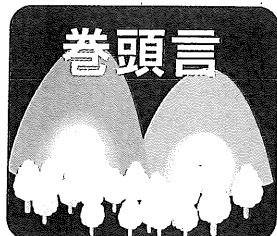
子ども樹木博士 ニュース

2017 - 9

No. 68

子ども樹木博士認定活動推進協議会

巻頭言



「もう一度森に来たい」の声に向けて ～森林インストラクター会“愛”の活動から～



森林インストラクター会“愛”会長 大澤 秀文

先の6月18日初めて東京以外の愛知県で「全国子ども樹木博士認定活動交流会」が開催され、森林インストラクター会“愛”（愛知地区・会員数74名）のメンバーも一緒に協力しました。「子ども樹木博士」は、楽しい流れを持ったプログラムだと再確認しているところです。

同会が実施している「子ども樹木博士」は10年を経過して、都市部での一般公募ということから多くの課題が生まれました。

子どもの参加者が年々減り、一方で大人（主に熟年層）の参加者が増え、子どもも大人も同時に楽しむポイントが掴みにくくなっています。

都市部での実施ということもあり、都市公園での樹木採集が難しくなり、テスト方法に工夫が必要となっています。などです。

森林インストラクター会“愛”は数年前から「より多くの人に森や樹木を親しんでもらうこと」「森の案内人・森林インストラクターをより知ってもらうこと」を基本に置き、主に3つのねらいを持った軸で展開しています。その中で、「子ども樹木博士」講座を考え現在の活動になっています。

●より多様な対象者に向けて楽しく森や樹木を知ってもらう「都市公園イベント」へ参加する。

愛知県主催あいち都市緑化フェアへ“なぞとき樹木探偵 in 大高緑地”や名古屋市東山植物園との協同開催の“樹木スタンプラリー”に例年参加しています。

例えば、“なぞとき樹木探偵 in 大高緑地”ではゲーム感覚の樹木の問題にファミリー、子どもサークル、夫婦、カップルが笑いながら樹木巡りをして回答していく。そこには森林インストラクターが居ておもしろい問題解説をします。今年は900名を超える参加者がありました。森や樹木へ親しんでもらう入口として進めています。

●森や樹木に興味を持つ対象者に向けて「子ども樹木博士」を実施する。

なごや環境大学共育講座の中で「子どもも大人も樹木博士」講座として子どもから大人まで対象に実施しています。進め方は3回・3か所に分けてより森や樹木、そして人との関わりを中心に、また極力子どもグループと大人グループに分けた構成でプログラムを展開しています。

(2 ページ下段に続く)

目次

巻頭言	「もう一度森に来たい」の声に向けて	森林インストラクター会“愛”会長 大澤 秀文 … 1
特集 I	高尾山の樹木シリーズ(2)	森林インストラクター 藤田 富二 … 2
特集 II	観察会テンパリ日記(6)	森林インストラクター・樹木医 岩谷 美苗 … 3
事例報告	日本大学生物資源科学部環境教育ボランティアの会キララ	富澤 眞柚ほか … 4
シリーズ I	樹木の話(6) -ニシキギとコマユミ	森林植物研究家 埴田 宏 … 5
シリーズ II	東南アジアの木々たち(36)	自然と植物の観察会 TREECIRCLE 梅本 浩史 … 6
子ども樹木博士質問コーナー(48)	茨城県植物園 緑のインタープリター・森林インストラクター 堀内 孝雄 … 7	
事務局だより	平成 29 年度全国子ども樹木博士認定活動交流会 in 愛知の開催 … 8	



高尾山の樹木シリーズ (2)



森林インストラクター 藤田 富二

○オニグルミ (クルミ科)

冬は葉痕がヒツジの顔に似ていてかわいらしい。春になり冬芽から芽吹き葉が展開してくると同時に花は開花し、雌花は新枝の先端に直立し、雄花は前年枝の葉脈から垂れ下がる。

春先に直立した花軸に雌花の赤い花が5~6個付き緑の中に際立って目立つ。やがて実も大きく成ってオニグルミだと認識されてくる。この実の皮をまだ青い時期に採取して草木染に利用できるが、沢山集めているうちに手袋などしないでやると、布よりも手の方が黄色く染まってなかなか落ちなくなってしまう。

熟して落ちた実はクルミ和えなどに利用できるが、森の中では動物たちの貴重なたんぱく資源である。この実の食べ方でリスとネズミでは歯の構造が違うので食痕も違ってくる。リスははりっぱな門歯を持っていて実の合わせ目から二つに割って食べるが、ネズミは実の両脇から削って実を食べるので、クルミの形はその

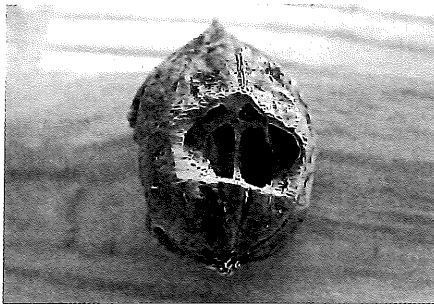
まま残っている。ネズミの食痕は時々まとめて残されているときがある。

この食痕を見ていると何かに利用できないかと考えてしまう。そして作ったのがランプである。クルミの中をくり抜いてLEDの入る大きさにおしりのところを削ると座りがよくなる。LEDのランプにキブシの髓をくりぬいて被せてぼんやりとした光にして、暗闇に置いて灯すと何とも言えない雰囲気が出てくる。私はこのランプに「癒しの灯り」と名づけている。ストレスの多い社会ではこんな灯りが求められてくるのではないだろうか。

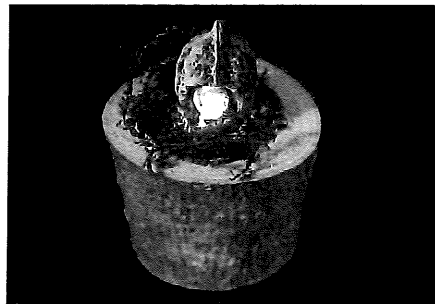
オニグルミの冬芽→葉→花→実→食痕と一年を通して観察することによって一本の木がいつしか友だちのようになってくるかもしれない。高尾山に自分の好きな一本の木に会いに出かけるなんてことになったら、素敵なことではないだろうか。



オニグルミの実



ネズミの食痕



癒しの灯り

(1ページからの続き)

(第1回：都市公園の森と樹木、第2回：里山の森と樹木、第3回：植物園での現地・現物の樹木を楽しく見分ける、答え合わせ、認定)

初めての参加者からリピーターまで自ら森を楽しみ、樹木を学びながら、できれば“かんたん樹木ガイド”までできるよう育成していきます。

●森林インストラクター情報交換・技術向上をねらいに「森林インストラクター交流会」を実施する。

森林インストラクターの皆は各自の活動を通じ自己研鑽をしています。それらの技術を持ち寄り、よ

り良い講座に仕上げていくための情報交換を実施しています。

講座やイベントを実施した後に必ず次回に向けた反省会を実施するようにしています。

子どもや大人から『楽しかった、もう一度森に来たい』と言ってもらったときは、森林インストラクターの皆にとって共通した喜びです。そして喜びの声が次の森林活動に繋がるのが大切と語ります。それは森林インストラクターの大きな役割の一つだから…と。

特集Ⅱ

観察会テンパリ日記 (6)



森林インストラクター・樹木医 岩谷 美苗

先日、例のごとく子どもたちに「面白い木をみつけよう」と授業をしたのですが、「全然見つけられなかったらどうしよう」と不安がよぎり、探す前に文字に見える木の例を少し見せたのです。すると、みごとにみんな文字ばかり探してしまいました。子どもたちは影響を受けやすいのです。別のクラスでは木の基礎知識だけ話し例は見せずにやりました。すると、バリエーション豊かに発見してくれました。万が一子どもたちが見つけられなかったときだけ「文字探しも面白いよ」と助言すればいいのに、我慢が足りませんでした。事前に木に興味を持たせないといけません、この面白い木を探すプログラムに関しては例を見せてはいけません。大人が「ここは面白いのがあまり無い」と思った場所でも、子どもは山のように見つけてくれるのです。

逆に言えば、子どもたちは事前に見せたものを「探したい!」と思うわけで、興味を持ってくれたわけです。「生き物を見つけよう」というテーマなら、虫やキノコなど事前に写真を見せておくと見つけた時に盛り上がります。あまり注目しない樹木なども映像を歩く前に見せておくと、木を意識的に見てくれるようになります。ただ、事前の話は20分を過ぎたらだめです。「あーこの人、話長い。早く終わらないかな」と思われてしまいます。クイズにして興味を持たせるのも手です。写真もついついたくさん見せたくなるのですが、この場合、量より質(面白さ)ですかね?たくさん用意したら、見せながら反応を見て、厳選していくと良いと思います。

教員をしている旦那が言うには、子どもに興味が無い状態で教えても無駄で、「一点突破方式」がよいようです。いろんな種類(教科)をたくさんやってみるというのではなく、興味を持った1つのことを追求してそこから興味を広げていくことのようにです。うちの子はまったく勉強しなかったのですが、ホームステイで英語に興味を持ち、英語の勉強だけはするようになりました。海外へ行くなら地理や世界史も興味をもて

るでしょう。ここからどうやって超苦手な数学に興味を持たせるのが難題です。

「勉強が大事」「森は大事」と唱えることは簡単ですが、興味の無い状況では説教にしかならないでしょう。伝えるというのは、相手の状況を見て工夫と我慢が必要のようです。



事例 報告

日本大学生物資源科学部環境教育 ボランティアの会キヲラ

日本大学生物資源科学部環境教育ボランティアの会キヲラ 富澤 眞柚ほか

こんにちは。私たちは、日本大学生物資源科学部で環境教育ボランティアの会キヲラという名前でボランティアによる環境教育を行っています。キヲラとは、アボリジニーの言葉で「やあ」という軽い挨拶を表しています。有志により、2002年から活動を始めました。主な活動は、大学内や小学校での子ども樹木博士、ネイチャーゲーム、木の実を使ったクラフト等です。クラフトは学祭での活動や雨天時のプログラムとして活用しています。

これらの活動に参加している仲間たちから、今までの活動についての思いを語ってもらおうと思います。

子どもたちに樹木を教えてみて思ったことがあります。子どもたちは樹木一本に色々な面白い発見や疑問を持ちます。発見に私も驚かされます。疑問について私自身も何故そうなのかと考えさせられることがあります。子どもたちの疑問に答えられるよう樹木についてもっと学ぶ必要があると思いました。教える側も子どもたちに教えられることが沢山あるのだと思いました。

(2年 五十嵐 穂香)

私たちキヲラの活動の魅力は、樹木の知識を深められるだけでなく、樹木や自然というテーマを通して子どもたちとの接し方も学べる一石二鳥な活動であることだと思います。活動を通して、子どもたちに教えるということは、同じ目線に立ち、簡単な言葉でわかりやすく伝える必要があり、原稿の文章に頼らず臨機応変に対応していくことが大切だなと感じました。

(2年 下村 夏子)

私は、樹木博士で教えることの難しさと楽しさを知りました。樹木の説明をしている時、樹木に興味がない子や、疲れてしまって話を聞いてくれなくなってしまった子がいて困りました。ですが、そういう子たちに樹木博士の楽しさ、樹木の楽しさを知ってもらえるように考えることが楽しさだと思いました。

(1年 高尾 歩美)

初めて参加した樹木博士で子どもたちに教えるのは少し緊張しましたが、楽しく教えることが出来ました。子どもたちにどう説明したら覚えやすいのかということを考えながら行いました。子どもたちと接することができ、良い経験ができたと思います。体験したことを踏まえて、次の活動に活かしていきたいです。

(1年 高橋 恵)

私は小学生を対象とした樹木博士に参加しました。今まで、キヲラで活動したことがなく当初は不安でしたが、事前の準備活動があったためになんとか樹木のことを伝えることが出来たと感じました。しかし、理解されていない方もいらっしゃる自身の課題も強く感じました。今後はさらに良い説明が出来るように努めます。

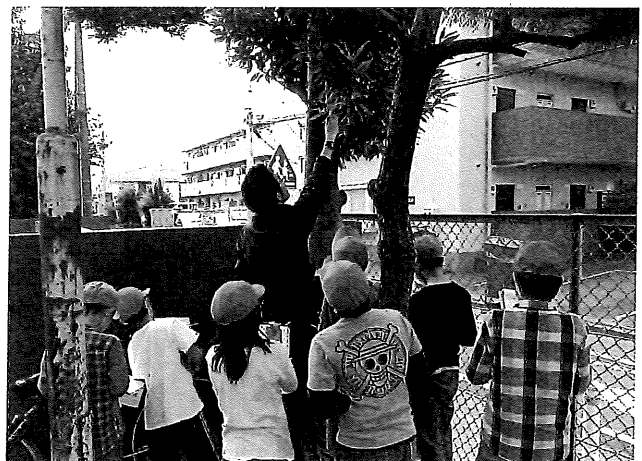
(1年 栗原 智暉)

私が初めて参加した子ども樹木博士では、参加者が2組しか集まりませんでした。加えて一人の参加者からは「帰りたい」という声も聞こえました。少し悲しくなりましたが、自らの仕事をこなしていきプログラムが中盤に差し掛かると、今までつまらなそうにしていた参加者の方、目を輝かせて楽しんでくれるようになりました。常にその方だけに付きっきりというわけではなかったのに、何がその方の興味を惹いたのか私には分かりませんでした。今までで最も印象的な出来事でした。

(3年 富澤 眞柚)

このように、活動を通して、各個人が様々なことを学んでいます。キヲラは現在、年に3回程度活動していますが全て昔からの繋がりのある団体からの依頼で活動を行っています。そのために、年に1回程度、自分たちで企画をして大学構内で樹木博士を行いたいと考えています。今のところは小学生を対象に、12種を満点としていますが、ゆくゆくは高校生以上を対象とした環境教育の方向も検討したいと思っています。

最後に、このような発表の機会をくださった全国森林レクリエーション協会に、キヲラを代表して篤く御礼を申し上げます。



シリーズ I

樹木名の話 (6)
—ニシキギとコマユミ—

森林植物研究家 埜田 宏

盆栽や庭木として使われるニシキギは茎にコルク質の薄い板（翼）があるので、すぐにわかります。図鑑には、秋に紅葉して美しくなる様子を錦に例えて“錦木”と呼ぶとあります。ところが、山地で見つかるのは原種のコマユミの方で翼がありません。葉が小さいマユミなので“小真弓”。さらに、「茎に翼が出るのがニシキギ、無いのがコマユミ」と説明しがちです。

「じゃあ、コマユミは紅葉しないんだ」

「いや、コマユミも紅葉するよ」

「だって、紅葉するからニシキギなんでしょ」

「じいちゃんの盆栽はニシキマツだけど、やっぱり紅葉するのかな」。

と、訳が分からなくなるので、整理してみました。

まず、織物で知られる“錦”について、大言海（1934年）によると、丹（に、硫化水銀の赤色）をまぶしく敷くという語源があり、「①五色の糸で様々な模様を織り出した、厚く、たいへん美しい絹布の名。②美しく麗わしい物の総称」。この定義は、現代の広辞苑にも引き継がれ、「金銀糸や種々の絵緯を用いて、華麗な文様を織り出した紋織物の総称」とされています。

樹木名の“錦木”をたどってみると、平安時代に書かれた本草和名（918年）では、漢名の“衛矛”の見出しの下に「和名 加波久末都々良、一名久曾末由実乃加波」とあります。衛矛（えいぼう）は現代中国の簡体字では“卫矛”と書き、日本のニシキギと全く同じ。ただし、コマユミを区別していません。和名のカワクマツヅラ、クソマユミノカワというのは、植物名というより薬にしたときの名らしく、和名抄（934年）ではクソマユミが標準の名となっています。

室町時代の百科事典である壺囊抄（1446年）に、「錦木とは何か」という項目があり、二つの錦木が説明されています。その一つは、女性に思う心を伝えるために“錦木を立る”という東北地方の言い伝え（秋田県鹿角市にある錦木塚の伝説）や、世阿弥の能に出てくる錦木のことで、樹木名ではなく、彩色した木片を指します。もう一つの錦木は“灰の木”であって、錦の糸を染めるのに用いたと書かれています。しかし、この灰の木はニシゴリ（ハイノキ科のサワフタギ）のことでしょう。

樹木名としてのニシキギの名は、江戸時代の末期の重訂本草綱目啓蒙（1844年）。クソマユミの別名として、ニシキギが記され、翼のない型をニシキギ、翼のある型をヤハズニシキギ、ヤパニシキギと呼んでいたようです。その60年後の大日本有用樹木効用編（1903年）では、ニシキギが標準、ヤハズニシキギ、ホンマユミが方言となっているので樹木名の標準と別名が入れ替わったこととなります。

ニシキギの名前の由来をきちんと記した例は金井紫雲の著書（樹木と芸術、1930年）にあり、「錦木は、秋の紅葉植物の中で極めて美しいものである。その葉の色づき方が、カエデ科の植物のように、一様に染まるのではなく、まだ青葉のある中に、一部はすでに紅色、一部は淡紅や紫に、色彩が入り乱れて綾織りの様子で、何とも言えない趣がある。錦木という名は、この美しい紅葉から付けられたものである」と、色が混ざり合うことを語源にしています。同時代の大言海も、「葉は紅・紫に、染まって美しい。そのため、東国では錦木（にしきぎ）の名がある」としています。

以上をまとめると、ニシキギの名の由来は、単に紅葉するからではなく、紅葉時期にバラツキがあり、緑・紅・淡紅・紫の色が混在する様子を錦織の文様に例えたもの。翼が出ないものも錦木です。ニシキマツ（錦松）の名は凸凹の激しい樹皮の美しさを強調したもので、紅葉することはありません。

（注：古典から引用は、現代語訳・仮名遣いにしました）

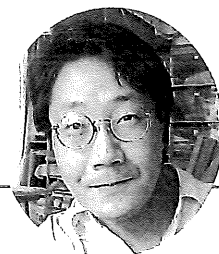


ニシキギの茎に生じた翼

シリーズⅡ

東南アジアの木々たち (36)

—カンボジア・シルク①—



自然と植物の観察会 TREECIRCLE 梅本 浩史

以前、カンボジアの植物や遺跡を撮影に訪ねた時に、他にも是非とも見てみたい場所が、幾つかありました。

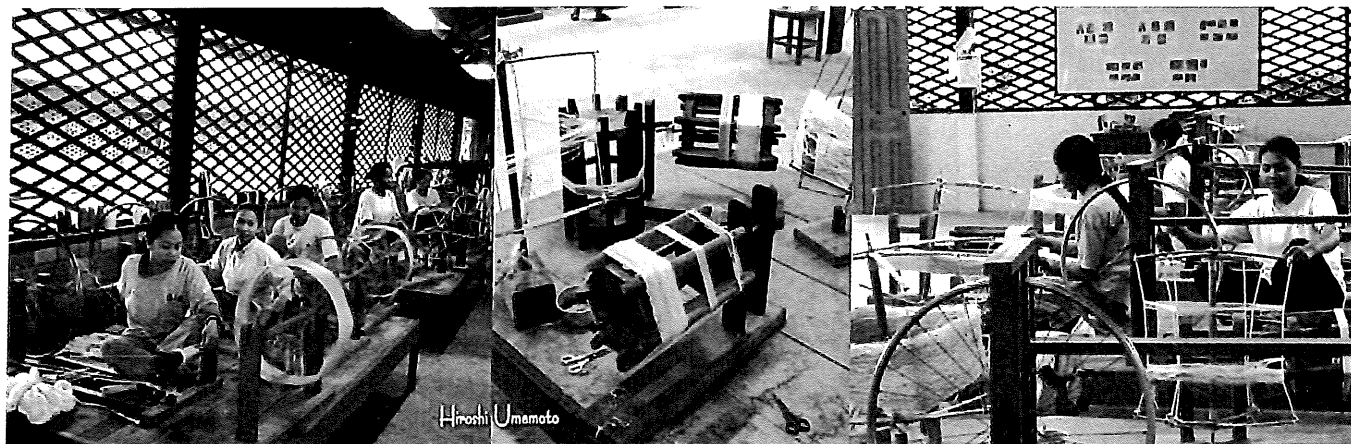
その一つが、今回ご紹介するカンボジア・シルクの「シルクファーム」です。



2014年、日本でも「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産に登録されましたね。かつては、私たちの日本でも、高価な絹の原料となる「蚕」(かいこ)を育てる「養蚕業」が、盛んに行われた時代がありました。蚕の繭から糸を紡いで、品質の良い「絹」(Silk)を作り出す絹糸紡績、そして「綿」(cotton)を原料

とする綿布工業が国内で目覚ましく発達し、世界でもトップの地位を築きました。

この繊維産業の発展は、それらを大量に世界へ輸出することで外貨を獲得し、「近代日本」を繁栄させる原動力となってゆきました。



一方、カンボジアでも、養蚕や絹の歴史はとても古く、アンコール王朝において、王宮の地位の高い人は、絹の伝統的な衣装を身にまとって暮らしていたと言われています。

1970年代、不幸にもカンボジアは内戦によって、国内は混乱を極めます。一般人を始め、伝統的なクマー

ル文化を伝える知識人や指導者を大量に失ってしまう事態に陥りました…。日本でも第二次世界大戦において、数え切れないほどの尊い人命が失われ、日本の伝統や文化、歴史を伝える貴重な建物や品々が、一度に、この世から消滅してしまう歴史がありましたね…。

子ども樹木博士質問コーナー(48)

茨城県植物園 緑のインタープリター・森林インストラクター 堀内 孝雄



Q テイカズラは有名な歌人の定家にちなんでつけられた名前と聞きました。その由来が知りたいです。

A テイカズラは、キョウチクトウ科のつる性常緑植物で、花が美しいこと、香りがよいことや葉っぱの大きさに変異が多いなど植物観察会などでは多くの人たちに人気のある定番の観察対象です。後白川法皇の第三皇女の式子内親王を愛した藤原定家が実らなかった恋の執念で病死した式子内親王の墓に葛かずらになってからみついたという話を脚色した謡曲「定家」にちなんで名づけられたと伝えられています。式子内親王は幼くして賀茂神社の齋院、神に仕える身となり 49 歳で病死したといわれます。なお、テイカズラには、まさきのかずら（真折の葛）という古名

があります。これはツルマサキの古称で神事に用いたと言われます。



庭木にはい上がるテイカズラ ひたちなか市 2017.5.27

Q 庭にビワの木を植えたいというと、ビワやナツメノ木は庭に植えるものではないと言われました。なぜかは分かりませんでした。家の庭や屋敷に植えてはいけない木や植えてよい木などがあるのですか。

A 昔から、庭木には、七禁忌木とか八禁木などという言葉が知られています。庭木には縁起の良い木、悪い木と言われるものがありました。ナンテンは「難を転ずる」と言いフクジュソウを添えて植えたり、飾ると縁起が良いと正月飾りに使われてきまし

た。クスノキやスズカケノキは、庭木に植えてはいけない木とされてきました。こうした木は生長が早く、知らぬ間に大木になってしまいますので庭に植えると家の日当たりや通風が悪くなると言って病人が出るなどの迷信によるものと考えられます。また、鮮紅色の花を咲かせるものは、火事にあうと言われ忌み嫌われました。こうした庭木の植栽のよし悪しは、もともとは中国の古い「風水思想」の影響と思われる。庭に木を植えて、観賞する人の気持ちの問題ですから楽しむという立場で禁忌木や禁木と言う考え方にはあまりとられないことが大切と思われます。

子ども樹木博士認定活動実施結果の報告のお願い

子ども樹木博士認定活動推進協議会では、毎年度、実施団体からのご報告等を基に、全国各地で実施されている子ども樹木博士認定活動の実施状況をとりとまとめています。子ども樹木博士認定活動を実施しましたら、当協議会の会員、非会員を問わず、是非ともご報告をお願いいたします。

報告用紙は、当協議会のホームページから WORD の用紙がダウンロードできます。報告用紙がない場合は、①実施団体名、②実施年月日、③募集人員、④参加人員、⑤対象者（小学生、親子など）、⑥実施場所等を記載したメモを FAX 又はメールで子ども樹木博士認定活動推進協議会事務局までお送り願います。

ホームページの URL : http://www.shinrinreku.jp/kodomo_nintei/index.php

● ● 事務局だより ● ●

◆平成 29 年度全国子ども樹木博士認定活動交流会 in 愛知の開催

6月18日(日)、愛知県名古屋市名城公園及びウィルあいちを会場にして、平成29年度全国子ども樹木博士認定活動交流会 in 愛知が開催されました。交流会については、例年、子ども樹木博士リーダー等交流会として東京において開催してきましたが、初めて地方での交流会の開催となりました。

当日は、地元愛知県内はもとより、近隣の岐阜県、三重県、静岡県、滋賀県や遠くは神奈川県から森林インストラクターや森林環境教育に関心のある方々、26名が集まりました。



午前中は、名城公園において、地元愛知県の森林インストラクター会“愛”のメンバーを講師として、4班に分かれ樹木観察が行われました。午後からは、会場をウィルあいちに移し、“愛”のメンバーが事前に準備した枝葉を用いて、午前に学んだ樹種についての実力テストが行われました。



その後、NPO 法人森林インストラクターしずおかの藤田久男氏と廣野淳三氏から森林インストラクターしずおかの子ども樹木博士認定活動の事例を報告していただきました。引き続き、森林インストラクター岐阜の会長である河原誠二氏による講演が実施されました。河原氏からは自らの体験を交えながら岐阜県内の様々な森林の紹介がありました。

最後に、子ども樹木博士認定活動を実施していく上での課題などについて参加者による意見交換が行われ、交流会を終えました。

今回の交流会の開催に当たり、森林インストラクター会“愛”の皆様には、会場の準備から樹木観察の講師など大変お世話になりました。誌面を借りて改めて御礼申し上げます。

◆第17回通常総会の開催

6月20日(火)、東京都文京区の林友ビル会議室において、第17回通常総会が開催されました。

平成28年度活動報告及び収支決算並びに平成29年度活動計画及び予算については、当協議会ホームページをご覧ください。

ホームページの URL : <http://www.shinrinreku.jp>

子ども樹木博士ニュース

2017年9月1日 No.68

子ども樹木博士認定活動推進協議会

〒112-0004 東京都文京区後楽1-7-12 林友ビル6階

一般社団法人全国森林レクリエーション協会内

TEL : 03-5840-7471 FAX : 03-5840-7472

E-mail : kodomohakase@shinrinreku.jp

URL : <http://www.shinrinreku.jp/kyokai/kodomokyou.html>

<http://www.shinrinreku.jp/kodomo-n/main.html>